

こんにちは せいてつ 病院です

2015
Vol. **101**
夏号

特集

C型肝炎の最新治療



Tamayo

- こんにちは探検隊
医療法人 ひがしだクリニック
- 新任医師のご紹介
- なぜ転院をすすめられるのですか？
- お薬と相性の悪い飲み物・食べ物

C型肝炎の最新治療

最近、新聞やテレビなどでも「C型肝炎」が取り上げられることが多くなりました。C型肝炎ウイルスに対する治療は近年大幅に進歩し、以前は治療困難であった高齢者や難治例もウイルス排除できるようになりました。進化したC型肝炎の最新治療について説明します。



はじめに

C型肝炎ウイルスは、感染すると主に肝臓にすみつき、炎症を引き起こします(慢性肝炎)。慢性肝炎の状態が続くと、無症状のまま20年から30年かけて肝硬変へ進行し、高い確率で肝がんを発症します(図1)。肝臓は症状が出にくい臓器ですので、肝硬変、肝がんへと病状が進んでもなかなか自覚症状が出ません。もちろんそのまま放置していると命に関わりますので、肝硬変、肝がんへ進行する前に、なるべく早くC型肝炎ウイルスを体内から排除することが重要です。

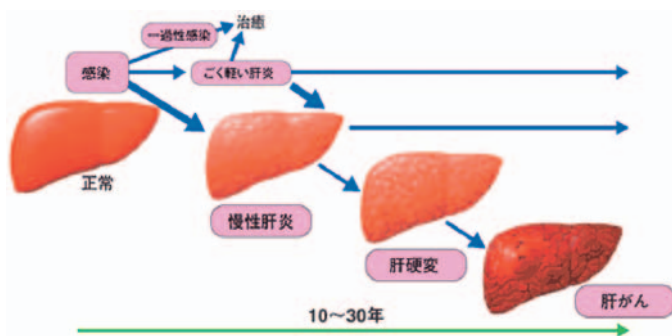
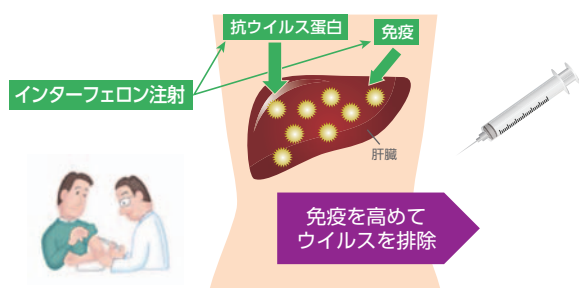


図1 C型肝炎の自然経過

今までの治療 インターフェロン

C型肝炎ウイルスを排除する治療は、今までインターフェロンの注射を中心に行われてきました。インターフェロン注射を用いた治療は1992年に初めて保険適応となりましたが、難治例である1型、高ウイルス量症例に対しては、5-10%程度しかウイルスを排除できませんでした。その後、治療は徐々に進歩し、2004年にはペグインターフェロン、リバビリン併用療法によって40-50%、2011年にはウイルスを直接攻撃する飲み薬であるDAA (direct acting antiviral agent) 製剤を併用することにより80-90%のウイルスを排除できるようになりました。

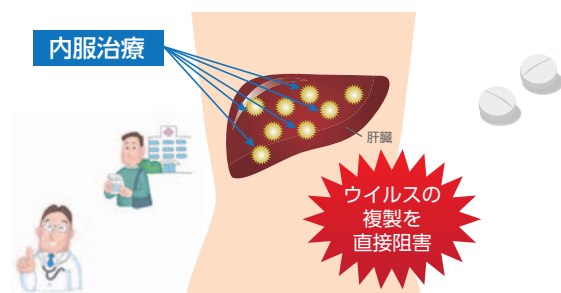
しかし、治療効果がよくなる一方で、治療に伴う副作用も強くなったため、高齢者や副作用に耐えられない方は十分な治療が受けられない状況でした。また、インターフェロンが効きにくい患者さんへの治療効果も不十分でした。



これからの治療 インターフェロンフリー

そこで開発されたのが、インターフェロンを使わない内服薬のみの治療(インターフェロンフリー治療)です。2014年9月には、その最初の治療であるダクラタスビル、アスナプレビル併用療法が保険適応となりました。これらの内服薬はC型肝炎ウイルスを直接攻撃する作用を持ち、インターフェロン治療に比べて副作用がかなり軽減されました。また、インターフェロンが効きにくい患者さんに対しても良好な治療効果が期待できます。

一方で、もともとこれらの内服薬に対して抵抗性のウイルス(耐性ウイルス)に感染していることがあり、その場合は治療効果が減弱するため注意が必要です。具体的には、耐性ウイルスに感染していない場合は95%の確率でウイルス排除できますが、耐性ウイルスに感染している場合は50%程度しかウイルス排除できません。このため、この治療を始める前には必ず耐性ウイルス検査を受けることが重要です。また、治療中は肝酵素が上昇する副作用が起こることがあるため、定期的な血液検査が必要です。



おわりに

C型肝炎ウイルスに対する治療は、今後も治療効果が高く、副作用が軽減された治療が開発され、保険適応となる予定です。ようやくほとんどのC型肝炎の患者さんからウイルスを排除できる時代になりました。今まで高齢だからとか、インターフェロンが効きにくいとか、副作用が怖いなどという理由で、C型肝炎の治療を受けておられない方はぜひ一度、肝臓専門医を受診してください。

C型肝炎は自覚症状がありません。検査を受けたことがない方は血液検査で簡単に調べられますので、お近くの医療機関で肝炎検査を受けてください。肝炎ウイルス検査ステッカーを貼ってある医療機関、または、北九州市保健所にて無料で受けられます(詳細は北九州市のホームページをご覧ください)。

C型肝炎治療には医療費助成制度があります。申請すれば、収入に応じて自己負担額が月額1万円または2万円まで軽減されます。



肝臓内科部長
山下 尚毅

やました なおき

日本内科学会認定医・指導医
日本肝臓学会専門医
日本消化器病学会専門医

内科 TEL 093-671-9302



医療法人

ひがしだクリニック

太陽・空気・水・緑を表す病院のロゴマークに象徴されるように、省エネ・創エネとエコの透析施設をめざす「ひがしだクリニック」を訪問しました。元気で長生きできる長時間透析をモットーに、患者さん第一の治療を行ってられます。



院長 松尾 賢三 先生
まつお けんぞう

院長の
横顔

趣味：寺社・宿坊巡り
サッカーファンとして、FCバルセロナや日本代表を熱烈応援！

Q：貴院のあゆみをお聞かせください

A：1977(昭和52)年に透析専門クリニックとして八幡クリニックが開院し、2002年に松尾賢三が院長に就任しました。就任から約10年来、透析液清浄化に注力し、本邦初のトータル熱水消毒透析システムや空気清浄化の概念を導入し、透析医療の進歩に微力ながら貢献してきたと自負しております。2012年には経済産業省の国家プロジェクト「次世代エネルギー・社会システム実証事業」に参画し、ひがしだクリニックを開院しました。八幡東田地区スマートコミュニティの一員として、再生可能エネルギーを利用した環境と人にやさしいスマートクリニックを運営しています。

Q：先生のコトをお聞かせください

A：「楽しく生きる!」、生老病死という言葉がありますが、人の役に立つ生き方をして功德(徳分)を積み、感謝を基本にすれば喜びの方が勝ると信じて生きています。すべては因果応報、自らの引き寄せです。

Q：貴院の特色やPR点、またスタッフについて

A：元気で長生きをめざす長時間透析(1回6時間以上)を実践しています。高齢化社会、透析治療を受けていても元気に日々過ごし、平均寿命以上

に人生を全うされることを目標としています。また労働世代の患者さんには、オーバーナイト透析(8~10時間)を行い、働きながら充実した人生を歩んでいただくサポートを行っています。さらに、保険診療の枠を飛び越え、アンチエイジングからがん末期までを対象に高濃度ビタミンC点滴療法や5種複合免疫療法を行っています。最新の話題として水素の臨床応用(水素水・サプリ・ガス等)を検討中です。

Q：当院へのメッセージをお聞かせください

A：センター病院として、あらゆる疾患に対応していただき、特に腎センターがあつてのサテライト透析施設ですので、先生方、スタッフの皆さんに心より感謝申し上げます。



天井に放射空調パネルを設置した透析室



オーバーナイトルーム



医療法人 ひがしだクリニック

北九州市八幡東区東田一丁目6-2 TEL 093-671-2311
URL <http://higashida-cl.com>

長時間透析やスマートクリニックとしての取り組みなどについて熱心にお話をしてくださる先生の姿に、患者さんが元気で長生きしてほしいとの強い思いを感じました。



今回の探検隊

看護部 那須 さや香
経営管理部 有田 円香
高澄 和代



D外来

内視鏡センター
循環器・高血圧内科
脳血管内科



部署目標

1. 安心して検査・外来治療が受けられるよう医療チームで取り組むとともに苦痛緩和に努めます
2. わかりやすい説明を心がけます
3. 患者誤認防止のためフルネームで確認します
4. 個人情報・プライバシー保護に努めます

D外来は内視鏡センター(消化器内科、肝臓内科、外科、呼吸器内科)の検査・治療と循環器・高血圧内科、脳血管内科のエコー検査を担っています。

消化器内科では胃カメラと大腸内視鏡を行っています。早期の胃がん・食道がん・大腸がんに対して、ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)を積極的に行っています。手術よりも侵襲が少ないため、高齢者の方も治療を受けていただくことができます。

肝臓内科では食道静脈瘤や胃静脈瘤の検査や治療を行っています。定期的に適切な検査や治療を受けていただいているため、近年では食道静脈瘤の破裂は減少傾向です。

外科では、胆管結石や腫瘍に対する検査や治療のために、侵襲が少ないERCP(内視鏡的逆行性胆管膵管造影)を行っています。

呼吸器内科では透視下での気管支鏡検査を、循環器・高血圧内科と脳血管内科では経食道心エコー検査を行い、その後の治療方針を決定しています。

スタッフは看護師9名(日本消化器内視鏡学会の資格試験により認定された内視鏡検査技師3名を含む)と臨床工学技士6名、洗浄担当の助手1名です。おもに検査・治療の介助、検査中・検査後の患者さんの状態観察、内視鏡器具の洗浄業務、患者さんへの指導を行っています。院内の内視鏡はすべてD外来で洗浄を行い、内視鏡の感染管理を行っています。また日中・夜間を問わず、緊急時の呼び出しにも即座に対応できる体制をとっています。

内視鏡検査室では業務内容が専門的であるため、内視鏡の知識や技術を身につけ、安全・感染防止を重視し、安心して検査ができるよう取り組んでいます。



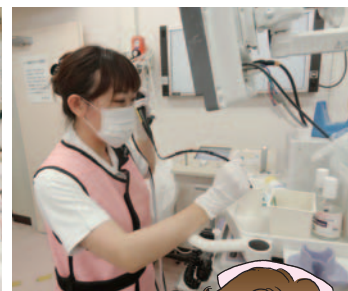
検査説明



洗浄



ESD準備

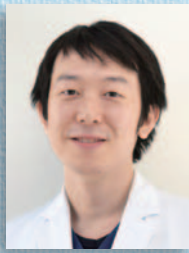


スコープ点検

さまざまな診療科に対応していますので、わからないことやお困りのことがありましたら遠慮なくおたずねください。

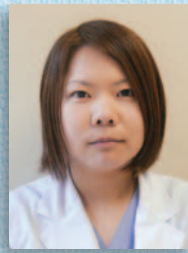


新任医師紹介



肝臓内科
くらしげ ともゆき
倉重 智之

肝臓内科の倉重智之と申します。未熟な点もありますが今後ともよろしく申し上げます。



消化器内科
さわの みゆき
澤野 美由紀

知識も技術も未熟ではありますが、お役に立てるよう努力していきます。よろしくお願いいたします。



循環器・高血圧内科
いのうえ みなこ
井上 美奈子

このたび、循環器・高血圧内科レジデントとして勤務させていただきましたこととなりました。精一杯頑張りたいと思います。



循環器・高血圧内科
あおやぎ
青柳 いくみ

循環器・高血圧内科1年目の青柳です。研修医2年間で製鉄病院で過ごし、今年からは恩返しできるよう頑張ります。



循環器・高血圧内科
わたなべ やすお
渡邊 泰生

新たに製鉄病院に勤めさせていただく渡邊です。精一杯頑張らせていただく所存です。よろしくお願いいたします。



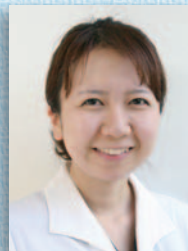
循環器・高血圧内科
とみた ゆうすけ
富田 祐亮

はじめまして。宮崎、鹿児島、福岡、長崎を経て北九州に参りました。皆さんのお力になれるよう頑張ります。



糖尿病内科
くろかわ ますみ
黒川 真澄

内科医として、患者さんがほっと安心できるような医師になることが目標です。どうぞよろしくお願いいたします。



糖尿病内科
おおしら あやか
大城 彩香

はじめまして、糖尿病内科にお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。



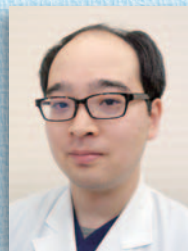
腎臓内科
このの ひろき
河野 広貴

この病院で働きたい！と思って愛媛から来ました。方言も地理もまだよく分かりませんが、一生懸命頑張ります。



呼吸器内科医長
なかがき のりあき
中垣 憲明

8年ぶりに製鉄病院へ戻って参りました。また、よろしくお願いいたします。



呼吸器内科
おかむら こうじ
岡村 晃寛

このたび呼吸器内科4年目として着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。



呼吸器内科
あんどう ひろゆき
安藤 裕之

卒業3年目の安藤裕之と申します。精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。



脳血管内科
おおや ゆういちろう
大屋 祐一郎

3年目の大屋祐一郎です。研修医を卒業したばかりですが、一刻も早く仕事に慣れるよう頑張ります。



脳神経外科
おぎの やすや
小柳 佑也

佐賀出身で、食べることで夏が大好きです。製鉄記念八幡病院の一員として、精一杯頑張ります。



消化器外科主任医長
やまだ たかふみ
山田 大輔

内視鏡手術を主として、消化器がんの手術を手広く行ってきました。出血や合併症のない手術を心掛けています。

この春より33名の新任医師が着任し、診療に励んでいます。
ご心配なことがあれば気軽にご相談ください。



消化器外科医長
ちかざわ のぶひと
近沢 信人

このたび消化器外科で勤務させていただき近沢と申します。患者さんご家族の話を聞き、気持ちに寄り添えるよう努力します。



整形外科
あらい たかゆき
新井 貴之

4月より整形外科に着任しました新井と申します。外傷を中心に診療にあたらせて頂きます。よろしくお願いたします。



整形外科
いしはら しん
石原 新

はじめまして。安倍先生の後任として参りました石原と申します。皆さんのお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いたします。



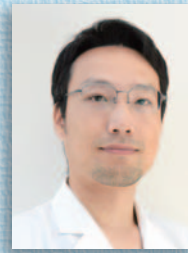
泌尿器科医長
おはばた ひろあさ
尾畑 紘史

はじめまして。武田先生の後任で参りました尾畑と申します。少しでもお役に立てるよう頑張ります。



放射線科
うえの みどり
上野 碧

はじめまして。放射線科のレジデントとして着任いたしました上野です。よろしくお願いたします。



手術部部長
麻酔科担当部長
おぼら 剛
小原 剛

はじめまして。手術部・麻酔科に着任いたしました小原です。一刻も早く信頼を得られるように頑張ります。



麻酔科
まるおか つかさ
丸岡 司

本年度より麻酔科に所属することになりました丸岡司と申します。安全な麻酔管理を心がけて頑張っていきます。



病理診断科
はんた みずき
半田 瑞樹

病理診断科の半田と申します。迅速かつ的確な診断をめざしています。よろしくお願いたします。

研修医1年次集合

なりたい医師・理想の医師

患者さんに寄り添い、生涯学び続ける医師 西村 遼平 (にしむら りょうへい)

患者さんに寄り添い、信頼を得られる医師 高橋 純一 (たかはし じゅんいち)

患者さんに寄りそう、安心を与えられる医師 日高 壮意 (ひだか ますおき)

患者さんに信頼され、安心感を与える医師 酒井 大樹 (さかい ひろき)

患者さんの信頼を得てそれに応えられる医師 小野 玄太郎 (おの げんたろう)

患者さんに信頼され、常に学び続ける医師 横手 章人 (よこて あきひと)

親しみやすく、誰からも信頼される医師 渡辺 ゆか (わたなべ ゆか)

患者さんを笑顔にできる医師 宮田 依末子 (みやた えみこ)

初心を忘れず、思いやりのある医師 鶴田 銀珠 (つるた ぎんじゅ)

患者さんに安心感を与えられるような医師 長尾 敏彦 (ながお としひこ)



なぜ転院を すすめられるのですか？



病院には患者さんの状態に合わせた役割分担があります。

製鉄記念八幡病院では、おもに緊急・重症の患者さんや手術の管理が必要な患者さんが入院する急性期医療の役割を担っています。急性期治療が一段落したら、患者さんの状態に合った病院や医療機関にバトンタッチして、適切なりハビリや療養を行えるようにするために転院をお願いしています。

急性期



緊急・重症の方の検査や処置、手術を行います

回復期



病状が安定した方の在宅復帰をめざしリハビリを行います

維持期



かかりつけ医への通院や在宅医療、施設で療養します



転院や退院に関する不安や疑問がございましたら、お気軽にご相談ください。

医療相談室で、医療ソーシャルワーカーと退院調整看護師が担当しています。

お問い合わせ

◆医療相談室

TEL 093-671-9345
FAX 093-671-9556

◆受付時間

平日 9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始は病院休診)



お薬と相性の悪い飲み物・食べ物

みなさんは、お薬を水またはぬるま湯で飲んでいますか？お茶やジュース、牛乳という方も意外と多いのではないのでしょうか。飲み物や食べ物の中にはお薬と相性が悪く、効果に影響するものがあります。代表的なものを一部紹介します。

緑茶

風邪薬や解熱鎮痛剤、アレルギー性鼻炎のお薬にはカフェインが含まれているものがあります。緑茶にもカフェインが含まれているため、緑茶で服用すると、カフェインの過剰摂取となり、頭痛や動悸などの症状を起こすことがあります。緑茶の他にコーヒーや紅茶などにもカフェインが含まれているので注意しましょう。



グレープフルーツジュース

グレープフルーツは、血圧降下薬、脂質異常症治療薬などの効果を強めてしまうことがあります。これはグレープフルーツの成分がお薬の分解を妨げ、体内に分解されないままのお薬が増えて作用を強くするからです。



アルコール

飲み物の中でも、最も注意を必要とするのがアルコールです。アルコールを飲んでいるときにお薬を飲むと、効果が強くなったり弱くなったりすることがあります。特に、睡眠薬、精神安定剤などではお薬とアルコールの作用が重なり合い、中枢神経が高度に抑制されます。その結果、意識障害を起こしたり、昏睡状態に陥ったりする可能性があるため、大変危険です。服用前後のアルコール摂取はやめましょう。



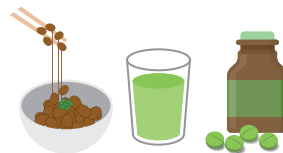
牛乳

牛乳などの乳製品には、カルシウムが多く含まれています。骨粗鬆症治療薬や抗生物質、便秘薬の中には、カルシウムと結合して吸収が低下し、効果が弱ってしまうものがあります。



納豆・青汁・クロレラ

納豆・青汁・クロレラには、ビタミンKが多く含まれています。ビタミンKは血液をサラサラにするワルファリンというお薬の働きを妨げ、効果を弱めてしまうので、絶対に摂取しないでください。



このように、飲み物や食べ物によっては、お薬の効果に影響を与えてしまうものがあります。とても危険な状態を引き起こす場合もあるので、お薬はコップ一杯の水またはぬるま湯で飲む習慣を身につけましょう。

新副院長ごあいさつ



副院長・整形外科部長
リウマチ科部長・診療技術部長 **田山尚久**

〈専門〉 股関節・リウマチ
日本整形外科学会専門医・日本リウマチ学会専門医・日本リウマチ財団登録医

6月より副院長に就任しました田山尚久(たやまなおひさ)です。1986年に九州大学医学部を卒業後、整形外科教室に入局し関連病院での研修を経て、1992年6月より当院職員医師として勤務しております。整形外科の中では股関節外科、リウマチ外科を専門分野として臨床ひとすじに診療して参りました。2010年4月より整形外科部長を務めてまいりましたが、これからは副院長として各職種の連携を細やかにし、チーム医療を充実させ地域医療に貢献できる体制づくりに努力したいと考えております。ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



病院ご利用の

賢い選択

自立支援医療(更生医療) ～肢体不自由障害～

更生医療制度とは、身体障害者手帳をお持ちの方の障害を軽減して日常生活能力、職業能力を回復改善するために必要な治療(手術)費を、国が助成する医療制度です。

当院では、人工関節置換術(股・膝)などの手術を受けられる患者さんに説明しています。

● 申請方法

身体障害者手帳を所持している方に対してのみ、更生医療を申請することができますので、まず手帳の交付を受けてください。

身体障害者手帳の申請の申込み

- ①各市区町村担当課で、下記①⑥の用紙を受けとる
- ②用紙を当院総合受付に提出する
※申込み後はリハビリでの計測が必要
- ③担当医記入後、当院より電話連絡
受取後、①～④及び⑤(現在お持ちの方のみ)をご持参の上、各市区町村担当課へ申請

更生医療の申込み

- ①手帳取得後、手帳をご持参の上、当院総合受付で手続き
- ②担当医記入後、当院より電話連絡
受取後、③～⑥をご持参の上、各市区町村担当課へ申請

- ①身体障害者診断書・意見書(肢体不自由障害用)
- ②写真(3cm×4cm) ③健康保険証
- ④印鑑 ⑤身体障害者手帳
- ⑥更生医療要否意見書

● 申請が認められた場合

更生医療の世帯所得別月額上限額について

世帯区分		自己負担限度額/1ヶ月
市県民税 非課税世帯	生活保護世帯	0円
	受診者の年間収入80万円以下(低所得者Ⅰ)	2,500円
	受診者の年間収入80万円超え(低所得者Ⅱ)	5,000円
市県民税 課税世帯	市県民税額が年間33,000円未満	医療保険の自己負担限度額
	市県民税額が年間33,000円以上235,000円未満	
	市県民税額が年間235,000円以上	対象外

*認定日からの適用となります。

*原則1割負担です。

*世帯員の所得に応じて負担上限額が設定されます。

(所得制限があり、対象外となることがあります)。

*障害等級1級に該当する場合、障害者手帳とは別に重度障害者医療証が交付されます(所得制限等があります)。

■お問い合わせ 医事課 さんのみや 三宮

TEL 093-672-3186 (9:00～16:30)

第7回「地域医療連携の夕べ」開催

6月16日(火)に北九州八幡ロイヤルホテルにおいて、地域医療連携の夕べを開催しました。

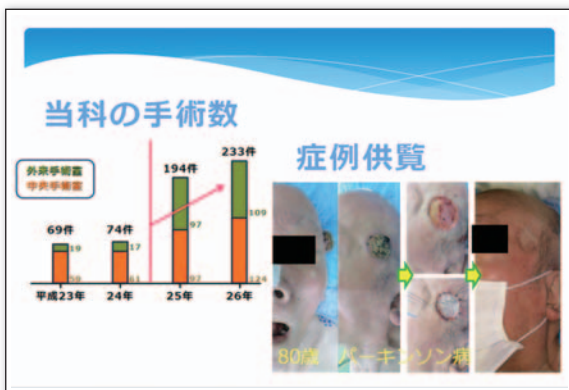
地域医療連携とは、地域の先生方と医療機関がおたがいに精密検査の依頼や専門医の紹介、転院した患者さんの経過観察など、さまざまな医療情報を交換することで、地域の皆さんに最適で効率的な医療を提供することをめざすものです。

この会は、地域の先生方と当院医師との顔の見える関係を深めて、より一層の医療連携を推進することを目的に、年1回開催し今回で7回目になります。

第一部では、当院医師4名による講演、第二部は情報交換会を行い、会食をしながら交流を深めました。

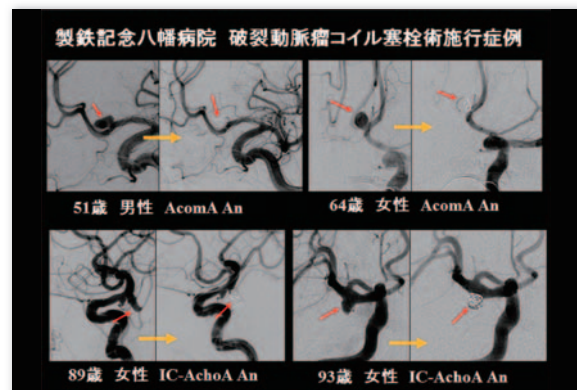
141医療機関より地域医療に携わる約300名のみなさまにご参加いただき、和やかな雰囲気のもと、言葉を交わすことができ、今後の医療連携の推進に向けて大きな収穫を得ることができました。

今後も地域と密接に連携し、良質な医療の提供をめざしてまいります。



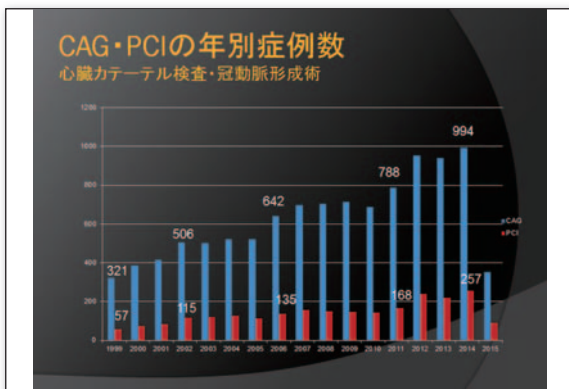
「当院における皮膚科の診療」

皮膚科医長 やすかわ しんすけ
安川 晋輔



「脳神経疾患に対する脳血管内治療」

脳神経外科主任医長 やまくち しんや
山口 慎也



「心臓カテーテル検査室の現況」

心臓カテーテル検査科部長 かせだ しげる
加世田 繁



「進歩する緩和ケア」

消化器外科部長・緩和ケア外科部長 まきの いちろう
牧野 一郎



第4回臨床高血圧フォーラム

さる5月23・24日、当院の土橋病院長が会長を務めました「第4回臨床高血圧フォーラム」がアクロス福岡において開催され、全国から841名の参加がありました。特別講演として、ふくや取締役相談役 川原健氏によります福岡県が誇る明太子の誕生秘話「明太子をつくった男」のご講演や、市民公開講座では歌手の夏川りみさんを招いてミニコンサートと土橋病院長とのトークショーも開催されました。

また、特別企画としてエルガーラ・パサージュ広場では「減塩サミット2015in福岡」を同時開催し、「美味しい・ヘルシー・減塩ライフ！」をテーマにしたイベントに、多くの市民の方々に集まっていただき、減塩からの健康について関心の高さがうかがえました。

当院では、減塩の指導をはじめ、がんや脳卒中、心疾患につながる生活習慣病予防・指導に精力的に取り組んでいます。



診療科目

がん診療センター	循環器・高血圧センター	脳卒中・神経センター	内視鏡センター	腎センター
内科	肝臓内科 消化器内科	循環器・高血圧内科	心臓カテーテル検査科	腎臓内科
心療内科	脳血管内科 呼吸器内科	小児科	外科	糖尿病内科 消化器外科
脳神経外科	整形外科	リウマチ科	リハビリテーション科	形成外科
泌尿器科	眼科	耳鼻咽喉科	緩和ケア外科	病理診断科
歯科・口腔ケア科				放射線科
				皮膚科 麻酔科

専門外来

内科	血液外来／甲状腺外来／膠原病外来／ペースメーカー外来／腹膜透析外来／禁煙外来	呼吸器内科	SAS外来（睡眠時無呼吸症候群）	整形外科	リウマチ外来
心療内科	カウンセリング	小児科	小児循環器／小児神経／小児腎臓／小児肥満	放射線科	放射線治療外来
		外科	乳腺外来	緩和ケア外科	緩和ケア外来

■ 予約センター：093-671-5489

■ 夜間休日急患受付：093-672-3111

全科予約制

予約受付時間 8:00～16:00

当日予約 10:30まで

休診日：土曜、日曜、祝日



使命
住民の暮らしを支え、健康長寿をめざした地域づくりに貢献します

理念
皆さまが納得・安心する最良・最適の医療を提供します
職員が誇りと自信を持つことができる職場づくりを追求します
伝統を継承し、未来を見据え、地域から信頼される病院をめざします

編集後記

薬を自己判断で内服することにより、危険な副作用をもたらすことがあります。簡単そうで奥が深い薬について、知って得する情報をわかりやすくお伝えできるよう頑張っています。

薬剤部 田仲 祐衣

こんにちは
せいてつ
病院です

発行日
2015年7月1日

発行部数
3,900部

社会医療法人 製鉄記念八幡病院
〒805-8508北九州市八幡東区春の町1丁目1-1
TEL 093-672-3176
http://www.ns.yawata-mhp.or.jp
編集・発行責任者：病院長 土橋 卓也

● 広報誌へのご意見はこちらまで info@ns.yawata-mhp.or.jp
● 地域医療連携のお問い合わせ TEL093-671-9700

デザイン編集・印刷：よしみ工業株式会社 表紙イラスト：かわぐち たまよ

